



名南デンタルだより



発行：名南税理士法人 歯科プロジェクト
〒456-0031 愛知県名古屋市熱田区神宮二丁目2番2号 TEL：052-683-9143 FAX：052-683-9106

歯科衛生士としての責任とやりがい 9

ファジーで見えないことを

男性患者の目の前にパソコンの液晶画面が置かれています。まず画面に出てきたのは口腔内の写真です。「これが私の口の中ですか？初めて見ました。汚いですね～！」と、驚きとも何とも言えない表情を見せる男性患者です。口腔内を専用のカメラで写し説明をすることは、最近はずらしいことではなくなりました。口腔内の各部を診療目的に合わせて、5枚、9枚、12枚という風に撮っていきませんが、口の中に特殊な形をしたミラーを入れてそれに写ったものを撮影することは、技術の要することです。歯科衛生士はそのための研修を受け練習を重ねてやっと撮れるようになります。歯科衛生士Mは、歯の裏側の赤く腫れた歯肉や被せものの周りに白く残っている歯垢(プラーク)特に目立つ下の前歯の裏側に壁のような塊になって付着している歯石のなどを、眉をひそめて聞いているこの患者に丁寧に説明していきます。

もっとファジーで見えないことを

口腔内の写真を見ながら説明を受けた男性患者にはこれから始まる治療が現実味を帯びてきたようです。口の中は見えそうで見えません。“観ていない”と言った方が正しいかもしれません。体内にある臓器なら見えなくて当たり前でしたが、しかし案外、最近検査によって観る機会もあるものです。造影剤を飲んで透視をする検査や超音波検査、CTやMRIなど、どんどん進化していく検査機器の開発とともに、隠れた臓器の状態を目の当たりにすることができます。その点、口腔は唯一肉眼で見える臓器の筈?なのですが・・・。口腔は、今だにファジーで見えにくいと私は思っていますがいかがでしょうか?もちろん歯科にもインプラント治療などのためにCT検査は欠かせないものになっていますし、分かりやすい説明のためにビジュアルな解剖画像が開発されてきています。

歯科衛生士Mが次に出してきたのはレントゲン写真です。顎の骨からすべての歯、口腔内全体を写したパノラマ写真と、デンタルという部分写真を何枚も写して並べたものを用いて、Mが最も力をいれて話したのは歯周病の進行状態です。最近一般の方にも「歯周病は骨の病気」という認識が少しずつ浸透してきましたが、それが具体的にどのようなものかはまだまだファジーな世界だと思えます。レントゲンはあくまで影であって2次元的なものですが、それでも歯を支えている骨が歯周病菌との戦いに敗れ溶けていっている様子は鮮明に分かります。この男性患者も歯周病が中等度からそれ以上に進み始めており、骨が破壊されつつある“現在進行形の状態”がレントゲン写真に写し出されていました。Mの熱心な説明に男性患者の顔は真剣そのものです。

歯周病の治療に携わる歯科衛生士の役割(責任)

次に、歯科衛生士Mは「歯周精密検査」の説明を始めました。すでに連載7でどのような検査内容かは書きましたが、その時文中にあえて厳しく書いた【歯科衛生士の方々に念のために再認識して頂きたい書き添えれば、「歯周組織検査」は何を診るためのものですか?】ということと、「歯科衛生士の役割(責任)は何ですか?】私がこう力説したこの検査です。もっとも重要なところですが、歯周組織検査は文字どおり、歯周=歯の支持組織の状態を見る検査ですが、歯科衛生士の最も注視すべき点は、これも連載7に書いたポケットからの出血(BOP)つまりポケットからしみ出るあるいは流れる血液の状態です。これをより分かりやすく数値化し、%で示しています。1本の歯につき6カ所の検査をしますが、例えば28本の歯がある患者の場合、出血した箇所が115箇所だとすると、BOP率は68%ということになります。そして歯科衛生士Mは続けて、BOP率=炎症指数の意味を男性患者に説明していきます。

フリーランス歯科衛生士
上間 京子

第八回公開シンポジウム

共催：メディカルマネジメントプランニング・グループ (株)川原経営総合センター

医療経済フォーラム・ジャパンは、医療経済学の深耕、医療経済学の若手研究者の育成、調査研究及び政策提言を目的とし、平成13年4月24日、加藤寛会長（千葉商科大学名誉学長）水野肇副会長（医事評論家）故川原邦彦名誉理事長を中心として設立されました。各界の錚々たる有識者から構成される正会員を中心に、隔月で定例研修会、また例年10月には公開シンポジウムを開催しております。

つきましては今回、「診療報酬改定の方向性」をテーマに公開シンポジウムを企画いたしました。各位におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

メインテーマ：「診療報酬改定の方向性」

平成22年4月に診療報酬の改定が予定されています。医師不足問題、後期高齢者医療制度への批判、介護療養病床廃止に伴う混乱など、医療提供体制の根本を揺るがしかねない事態が相次ぐ中での改定となります。すでに平成22年度における2200億円の社会保障費圧縮は凍結論議もなされ、医療への手厚い配分を求める声も高まりつつあります。その一方でさらに進む高齢化に備え、その財源確保の困難さから依然として社会保障費抑制に向けた動きがあるのも事実です。いずれにせよ、勤務医の負担を軽減しつつ、効率的かつ良質な医療提供体制を確保することが最重要課題と考えられます。そこで本シンポジウムでは斯界の第一人者をシンポジストに迎え、来るべき診療報酬の方向性について徹底討論を行います。

日時	平成21年10月10日(土)13:00 受付開始 基調講演・シンポジウム 13:30~17:30	会場	東京プリンスホテル 2階 基調講演・シンポジウム「プロビデンスホール」 東京都港区芝公園3-3-1 TEL.03-3432-1111(代)
----	---	----	---

交通手段：JR線東京モノレール浜松町駅徒歩10分、都営地下鉄三田線御成門駅徒歩1分

資料代	基調講演・シンポジウム・・・10,000円(税込)
-----	---------------------------

プログラム (五十音順)

基調講演 13:30~14:30	講師：厚生労働省 保険局 医療課長	佐藤 敏信 先生
シンポジウム 14:40~17:30	座長：医療経済フォーラム・ジャパン 副会長、MMPG 参与、医事評論家	水野 肇 先生
	シンポジスト：NHK生活情報部長 学習院大学経済学部 教授、中央社会保険医療協議会 会長 財務省 主計局 主計官 国民健康保険中央会 理事長 日本医師会 副会長 日本病院会 会長 厚生労働省 保険局 医療課長	飯野 奈津子 先生 遠藤 久夫 先生 可部 哲生 先生 柴田 雅人 先生 竹嶋 康弘 先生 山本 修三 先生 佐藤 敏信 先生
	質疑応答：	

尚、都合によりプログラム・講師陣等が変更となる場合がございますので、予めご了承下さい。
本フォーラムは(社)日本医業経営コンサルタント協会の履修時間(4時間)が認定される予定です。

お申込方法 MMPGホームページ (<http://www.mmpg.gr.jp>) よりお申込下さい。

～ 定員(450名)がございますので、お早めにお申し込み下さい。～

お問合せ先：MMPG本部事務局 〒104 0061 東京都中央区銀座8-11-11 TK銀座8丁目ビル2F
TEL.03-5537-3411(代) FAX.03-5537-3412